

令和6年度 日下地域ケアプラザPDCAシート\_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

新型コロナウイルス感染症は感染症の位置づけが季節性インフルエンザと同様の扱いに位置づけられそれに伴い感染拡大防止の取り組みも緩和され地域における行事・催しやケアプラザにおける福祉保健活動も徐々にコロナ前に戻ってきている傾向にあります。しかし、当ケアプラザの貸館の利用や自主事業に参加する方々の利用状況は、コロナ前の半数程度しか利用が回復していない状況となっています。ケアプラザが開所後22年経過していますが、開所まもないころに立ち上がった福祉保健活動のメンバーが高齢化を迎え担い手不足などが生じ、コロナ禍をきっかけに活動が停滞もしくは停止してしまった状況もあります。一般的に少子高齢化もすすみ担い手不足が進んできていることや単身世帯が増加し地域における「つながり」も希薄化している状況もデータで示されています。そのような状況を踏まえあらためてケアプラザを地域の身近な福祉保健活動の拠点として利用していただけるように周知するとともに、ケアプラザの機能を最大限に発揮し誰もが地域で安心して暮らせるように、地域住民や区役所等関係機関と協働して地域の課題を明らかにしその解決に取り組んでいきます。

☐ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	<input type="checkbox"/>	これまで開催を見送っていた「社会参加の場としての居場所づくり」を目的とした障がい児・者支援事業の再開に向けて「同窓会」を複数回開催し安定的な運営につなげ、将来的には災害時における地域との「顔の見える関係づくり」の場となるよう、取り組んで参ります。
<input type="checkbox"/>	■	昨年、約4年振りに実施した「ケアプラザ祭り」を今年も開催し、活動団体のモチベーション向上や住民自らが地域の魅力を再認識・発見するきっかけづくりの場として取り組んで参ります。
<input type="checkbox"/>	■	認知症を理解し、地域で安心して生活できるような取り組みを継続して参ります。
<input type="checkbox"/>	■	介護と医療の連携の架け橋となるツール等の作成に着手します。
<input type="checkbox"/>	■	高齢者一人ひとりが自分の健康増進・介護予防を主体的・継続的に行うことが出来る様に、介護予防普及啓発をしていきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

新型コロナウイルスの蔓延で自粛していた地域の行事や保健福祉活動等も昨年度から工夫を重ねられ活発に行われるようになりました。ケアプラザも地域の福祉保健の拠点としてこれまで低迷していた利用状況を回復させるために様々な工夫をして取り組み徐々に回復してきています。昨年度から再開したケアプラザ祭りもその一環ですが11月に実施し大勢の方々が来所されました。ケアプラザに関係する多くの方々の更なる活動の支援と地域に対してケアプラザを新たに知ってもらう機会をつくることができました。また、子供達やその親を含め参加したウオークラリーは、ケアプラザの中だけでなく地域の高齢者や子育て支援で活動されている活動拠点をまわってもらうことで地域の支え合いの一端を知ってもらう良い機会を作れたのではないかと思います。また、地域の小学校の授業の一環で「まちの協力事業所」をまわるウオークラリーを実施し協力もしました。認知症の方の見守りなどで協力する「まちの協力事業所」の取組を通じて地域の見守り活動を知る機会につながったと思われます。今後もケアプラザが福祉保健の身近な拠点として気軽に利用してもらえるように取り組んでまいりたいと思います。

☐ 区からのコメント

不登校引きこもり連絡会や自立支援協議会など、あらゆる分野のネットワーク会議に参加して新たな人脈を構築したほか、地域カフェを訪問して住民との関係性構築に努めるなど、5職種がそれぞれ把握している情報を共有しながら、地域の課題解決に向けて日々、積極的に活動いただき感謝いたします。ケアプラザ祭りは、子供から大人まで楽しめるように出展内容が工夫されており、普段あまり馴染みのない地域の方にとって、施設を知ってもらう良い機会となったと思います。認知症事業については、日頃のニーズを捉え、介護者のつどいを開催していただけたと思います。講座の内容も工夫されており、今後の展開も期待しています。また、次年度からのチームオレンジの推進にもご尽力いただけたと思います。権利擁護に関する相談には迅速に対応していただいていると思います。ケアマネジャーに対する支援も含め、今後も引き続き、よろしくお願いいたします。